

## 第2回 東京都感染症対策連絡会議

令和5年6月22日（木） 午後3時30分  
東京都庁第一本庁舎 42階 特別会議室A

### 【福祉保健局東京感染症対策センター担当部長】

それでは定刻になりましたので、ただいまから第2回東京都感染症対策連絡会議を開催いたします。私は本日の進行を務めさせていただきます、福祉保健局東京感染症対策センター担当部長の村本と申します。どうぞよろしくお願い致します。本日はお忙しいところ連絡会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。委員の出席者のご紹介につきましては、事前に配布させていただきました、出席者名簿で変えさせていただきます。

また、本日は感染症の専門家の先生方にお越しいただいておりますので、ご紹介いたします。まず感染症医療体制戦略ボードのメンバーであります、猪口先生でございます。

同じく戦略ボードのメンバーであります、大曲先生でございます。

医療体制戦略官の上田先生でございます。

そして東京 iCDC 所長の賀来先生でございます。

それでは議事に先立ちまして、座長の黒沼副知事からご挨拶をいただきます。

### 【黒沼副知事】

それでは冒頭に一言申し上げます。新型コロナウイルスが感染症法上の5類に位置づけられ、1か月半が経過をいたしました。この間、人の流れも活発化し、多くの外国人旅行者を目にするようになるなど、社会が本格的に動きを始めていると実感しております。5類移行後も毎週新型コロナウイルスのモニタリングを行ない、専門家の先生方に分析を頂いておりますが、新型コロナウイルスの感染者数は定点ベースでは増加の傾向が続いております。また、新型コロナ以外に子供を中心に流行するヘルパンギーナ、あるいはRSウイルス感染症などの感染者も増加をしております。本日はこうした感染状況もふまえて、新型コロナウイルスのモニタリング分析のほか、新型コロナの後遺症に関する取組、それからこれからの時期に特に注意が必要な感染症、こういったことについて報告をさせていただきます。また、ただいまご紹介がございましたが、本日はお忙しい中医療体制戦略ボードの猪口先生、同じくボードメンバーの大曲先生、医療体制戦略監の植田先生、そして、東京 iCDC 所長の賀来先生にもご出席をいただいております。誠にありがとうございます。

引き続き都民の命と健康を守るため、庁内及び関係機関との連携を密にし、専門家の先生の皆様方のご意見も拝借しながら、感染症全般への対策を適時適切に進めてまいります。私からは以上です。

**【福祉保健局東京感染症対策センター担当部長】**

ありがとうございました。

それでは続きまして、最新のモニタリング分析につきまして、専門家の先生方からご説明いただければと思います。

それではまず大曲先生、よろしくお願いいたします。

**【大曲先生】**

それではご説明をいたします。まずは1番の定点医療機関当たりの患者の報告数であります。グラフの1の1ですね。定点医療機関当たりの患者報告数をお示しいただければと思います。

今回、第24週のデータであります。414施設から報告された患者数が2,420であります。で、これを定点医療機関当たりの患者報告数で見ますと、前週が定点当たり5.992で、今週は定点当たり5.852で横ばいではありますが、引き続き今後の動向注意が必要であります。

また、学校と言いますと新型コロナウイルス感染症による学級閉鎖にも起こっております。ですので、介護施設も含めた集団発生事例、こうした状況を注視する必要があります。

次、1の2ですね。60歳以上の定点医療機関当たりの患者報告数であります。こちらは前週が定点当たり0.86人、今週は定点当たり0.86人と横ばいでございます。

高齢の方々であります。状況に応じてマスクを着用するなど、感染防止対策を徹底して、高齢者への感染の機会を減らしていくことが重要であります。若い世代よりも罹患されている率は低いと想定されますので、注意が必要です。

1の3です。定点医療機関当たりの患者報告数を保健所の区域別にみたものでございますが、区の中心部からの報告数が多い、そのような傾向がみられています。

次、2番です。#7119における発熱の相談件数でございます。この件数ですが、前週が93.6件、今回は98.3件とこちらも横ばいあります。子供を中心に流行する感染症、あるいは、時期柄熱中症なども含めて、救急相談件数は一日に2,000件を超える日もあります。ですので、今後推移に注意が必要であります。また、東京都の設けています、新型コロナの相談センターの相談件数であります。前週が1日あたり628件で、今回は一日あたり660件の相談件数でございました。

私からは以上でございます。

**【福祉保健局東京感染症対策センター担当部長】**

大曲先生、ありがとうございました、続きまして猪口先生、よろしくお願いいたします。

**【猪口先生】**

では救急医療提供体制の負荷についてお話しします。最初に、救急医療の東京ルールのグラフ、お願いします。

救急医療の東京の適用件数は、前週の 96.3 件から今週は 97.4 件と横ばいでした。気温も高い日であったこともあり、救急出動件数が 2,830 件と、令和四年度の 1 日平均が 2,389 件ですから、比べて 2 割ぐらい近く多い日が発生しております。引き続き動向を注視していく必要があります。

今日の入院患者数です。入院患者数は、前週の 1,032 人から今週は 956 人と横ばいでした。

外来医療の状況はひっ迫してはいないものの、新型コロナウイルス感染症以外にも、子供中心に流行する感染症の増加等により影響が出ております。現時点では、医療提供体制の大きな負荷は見られませんが、他の熱性疾患や熱中症等の受診者が増加しております。

医療提供体制の影響が懸念されるため、状況を注視する必要があります。周囲の状況等に依じて、特に高齢者の感染が徐々に増えてきているようですので、換気、手洗い、場面に依じたマスク着用などの感染防止対策を心がけることが望ましいと考えます。私の方は以上です。

**【福祉保健局東京感染症対策センター担当部長】**

猪口先生、ありがとうございました。

続きまして、賀来先生、よろしく願いいたします。

**【賀来先生】**

私からは変異株について報告をさせていただきます。スライドお願いいたします。

こちらのスライドはゲノム解析結果の推移について、直近 6 週間の動きを示したものです。世界で主流となっている XBB 系統は、新型コロナウイルスの 5 類移行後も都内で毎週増加しており、5 月 29 日から 6 月 4 日までの週では全体の 94.6% を占めております。XBB 系統の亜系統別では、5 月 22 日から 5 月 28 日までの週と、5 月 29 日から 6 月 4 日までの週を割合の高い順で比較しますと、X.B.B. 1.16 系統が 34.8% から 5.3% 減って 29.5%、X.B.B.1.5 系統が 15.9% から 2.0% 増えて 17.9%、X.B.B. 1.91 系統が 18.2% から 0.3% 減少して 17.9%、X.B.B. 2.3 系統が 10.6% から 5.5% 増えて 16.1%、X.B.B. 1.92 系統が 9.1% から 2.8% 減って 6.3%、その他の X.B.B. 系統が 3.0% から 4.1% 増えて 7.1% となっております。

今後とも東京 iCDC では、引き続きゲノム解析により変異株の動向を監視してまいります。

私からの報告は以上になります。

**【福祉保健局東京感染症対策センター担当部長】**

先生、どうもありがとうございました。続きまして、新型コロナ後遺症に関する取組につきまして、賀来先生よりご説明いただきます。

**【賀来先生】**

私の方から後遺症に関する報告をさせていただきます。この度、東京 iCDC の後遺症タスクフォースにおいて、経営者や企業の人事の担当者の方を対象とした企業向けの後遺症リーフレットを新たに作成致しましたのでご報告をいたします。実際にはこういったものであります。

(実際のパンフレットを提示)

こういう風になっておりまして、分かりやすく記載しております。

後遺症は、いまだその原因や治療方法が明確になっておらず、症状が長期間継続する場合があります。働く方の中には就業に支障が出ている事例もあることから、企業の後遺症への理解を深めていくことが重要でございます。この企業向けのリーフレットは、治療と仕事の両立の観点から作成したもので、後遺症の実態や後遺症に悩む方に対する職場での支援のポイント等を簡潔にまとめております。概要ですが、働く方に見られる後遺症の症状例をチェックリストやイラストを用いてわかりやすく記載しております。

また、職場における支援の流れやポイントについて、ステップごとに、ご本人が行うことと、職場側にご配慮いただくことを示しております。その他、公的支援制度や相談機関の情報についても参照できるものとなっております。

こちらのリーフレットは、企業関係団体を通じて加盟企業等に周知するとともに、本日より都のホームページに掲載をいたします。

続きまして、後遺症のオンライン研修会についての開催についてご報告いたします。スライドに投影しておりますが、6月25日の日曜日に3回目となります「新型コロナウイルス後遺症オンライン研修会」を開催いたします。今回は、後遺症の最新の研究内容や診療に関する知見等の他に、職場復帰支援のアプローチに関する情報を提供いたします。

現在この研修会の申込者は、1,261名と1,000名を超えております。後遺症に対しての関心の高さが伺えます。

後日、研修会の動画は都のホームページに掲載する予定であります。後遺症は年齢や基礎疾患の有無などにかかわらず、すべての方に起こる可能性があり、診断や治療等の知見を集積し、的確に情報を発信して行くことが重要であります。今後とも東京 iCDC 後遺症タスクフォースでは、後遺症に関して都民や医療従事者の皆様の理解促進に資するさまざまな取り組みを行って参りたいと思います。私からの報告は以上となります。

**【福祉保健局東京感染症対策センター担当部長】**

先生、どうもありがとうございました。続きまして、これからの時期に特に注意が必要な感染症につきまして、福祉保健局新型コロナウイルス感染症対策担当部長よりご説明いたします。

**【福祉保健局新型コロナウイルス感染症対策担当部長】**

それでは資料3を用いまして、これからの時期に必要な感染症について報告させていただきます。夏に向けて、都民の皆様へ、これから申し上げる二つの感染症についてご注意をお願いしたいと思っております。

一つは子供を中心に流行する感染症、いわゆる子どもの夏風邪であります「ヘルパンギーナ」「RSウイルス感染症」が今年増加しております。2020年から2022年までの過去3シーズンにおいては、ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱という夏風邪は流行しておらず、乳幼児の集団免疫が落ちていると考えられます。こうした中、集団生活や子どもたち同士の接触が元に戻り、ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症の報告数患者数が増加したものと推測されます。

2つ目は蚊媒介感染症であります。病原体を保有する管理されることで起こる感染症です。水際対策が緩和され、人の往来が回復しています。その中で、デング熱の輸入感染例の報告が目立ってきております。蚊の発生シーズンでは国内感染の発生リスクになります。

次、2ページをお開きください。

子どもを中心に流行する感染症、ヘルパンギーナについてです。グラフですが、過去6年間の毎週の患者報告数をグラフにしています。赤の折れ線は2023年流行開始が例年より早く急進であることがわかります。6月18日までの第24週、定点当たり6.09人と、警報基準6.0を超えております。2019年から4年ぶりとなります、ヘルパンギーナの流行警報ということで、都全域に本日15時30分に発表させていただきました。

ヘルパンギーナの症状ですが、発熱と口腔粘膜の水疱伴う咽頭炎が中心で、喉の痛みから食事を嫌がる子どもが多く見られます。脱水症状に注意が必要であります。

次、3ページ目をお願いします。

次にRSウイルス感染症です。例年9月に流行が見られますが、赤色折れ線で示す2023年は、5月から感染が拡大していることがわかります。

参考に青で示している2021年の流行は、2005年に定点観測が始まって以来、過去最大となっております。今年も、この2021年の発生動向をなぞるように増えてきておりますので、注意が必要になります。症状は、咳等の各呼吸器症状で喘息のような呼吸困難、乳幼児の細気管支炎肺炎を起こすことがございます。乳児では特に重症化に注意が必要でございます。

次のページをお願いします。

ヘルパンギーナ、RSウイルスの感染症の注意点をまとめました。いずれも有効なワクチンや予防薬はございません。基本的な感染対策の徹底が重要でございます。

子どもがいるご家庭や施設では、手洗い、うがい、咳エチケットの励行をお願いいたします。過度に恐れる必要はございません。ただ、重症化することがございます。子どもの様子がいつもと違う場合には、早めにかかりつけ医に相談・受診をお願いいたします。

次、5ページ目をお願いします。

2つ目ですが、蚊媒介感染症対策の対策でございます。

国の特定感染症予防指針では、「デング熱」「チクングニア熱」「ジカウイルス感染症」の三つが重点的対策を講じる必要が、ある疾病とされています。デング熱、チクングニア熱の症状は、発熱、発疹、頭痛等で、デング熱では2度目の感染で重症化し、出血熱を合併することがございます。

ジカ熱は軽症がほとんどですが、妊娠中に感染すると胎児に小頭症などの重い障害を残すことがございます。

都内の発生状況であります。デング熱は2014年度、2019年に国内感染例が報告されたほか、すべて海外からの輸入例となっております。

次、6ページ目をお願いします。

デング熱、ジカ熱とも、国内ではワクチンや治療薬はなく、対症療法となります。

屋外では、特に流行国、アジア、アフリカ、中南米の熱帯地域にご滞在中は肌の露出を避け、虫除け剤を使い、蚊に刺されないことが大切です。

患者発生時には、都では疑い患者の報告を医師に求め、迅速な検査体制を構築しています。また、患者発生状況情報や媒介蚊のサーベイランスに基づき、ウイルス保有かハイリスク地点の情報を発信しております。

最後のページお願いいたします。

蚊のサーベイランスでは、都立公園等25カ所で、月に1から2回、蚊を捕集して蚊の種類を特定したうえで、病原体を保有しているか検査を行っています。

また、毎年6月を蚊の発生防止強化月間と位置付けて、都民に対し「たまり水をなくす」など蚊の発生予防を呼びかけております。

これからの時期に特に注意が必要な感染症について報告は以上でございます。

#### 【福祉保健局東京感染症対策センター担当部長】

ありがとうございました。議事は以上となります。

それでは本日お越しいただきありがとうございます。専門家の先生方から全体を通しましてコメントをいただければと思います。

猪口先生、いかがでしょうか。

#### 【猪口先生】

ヘルパンギーナやRSウイルス等も含めて、今外来に発熱の患者さんが増えてるという話がありますけれども、今日、小児科の先生方と話を聞いてまいりましたところ、以前の状況に戻ってきてるというようなお答えをいただきました。

多分、これマスクを外したりですね、今、5類感染症になってきて日常に戻ってきて、そして昔の感染症がこうずっといくら広がり始めてるってところなんだらうと思います。ただ、患者さんは非常に多いんですけども、逼迫するってということでは今のところありません。

入院、このコロナの方の入院、それから重症患者さんも、そんなに今のところは多いわけではありませんので、この部分安心していただきたいと思います。

私の方は以上です。

**【福祉保健局東京感染症対策センター担当部長】**

ありがとうございました。続きまして大曲先生いかがでしょうか。

**【大曲先生】**

大曲です。1点、私は蚊媒介感染症、特にデング熱のことを申し上げたいと思います。

もう我々が生活の中で見るように、海外からのお客さんも増えてますし、我々自身も海外に行き来することが増えています。一方でそうしますと、海外でデング熱等もらってきて、国内で発症するというリスクは当然出てくるわけです。

海外の様子を見ても、今年は結構な流行が起こっているようでして、確かペルーは患者さんがすごく多くて、かなり医療が逼迫しているという報告を聞きましたし、たまたまシンガポールの情報を先週得ましたけども、急にデング熱の患者さんが増えて、やっぱり病院が結構大変なことになっているっていうことはありました。世界的にはかなり流行っているのかなという印象を持ってしまして、そうしますと日本に持ち込まれる数も増えるだろうと思っています。私は、「お出かけになる際には本当に蚊に刺されないように」ということを書かれていましたが、ぜひお気をつけいただければと思います。かかると本当につらい病気ですし、後遺症もあるのでお気を付けいただければと思います。

以上です。

**【福祉保健局東京感染症対策センター担当部長】**

大曲先生、ありがとうございました。続きまして上田先生いかがでしょうか。

**【上田先生】**

5類に移行して新型コロナウイルス感染症の状況を詳細に評価ということは難しくなりましたが、これまでコロナ感染者・入院患者数ともに緩やかに増加傾向が続いており、先週と今週と比較でも横ばいの状況でした。医療現場におきましては、都立病院を含め、まだ入院・外来共に逼迫している状況とはなっておりませんが、一方で都外ではコロナ感染者が大幅に増加して、医療が逼迫する恐れのあるところもあると聞いておりますし、東京都におきましても、熱性疾患や熱中症等の受診者が増加してきており、医療体制に対しての影響が懸念される状況です。

第2回都議会定例会で、7月以降の高齢者と医療支援型施設や高齢者施設における集中検査に関わる費用、感染拡大の外来確保のための経費を盛り込んだ予算が成立しました。高齢者などのハイリスクな都民を守る医療体制を継続するとともに、平時の医療体制・医療提供

体制にコロナ診療も含め段階的に移行できるよう、これからも幅広い医療機関にコロナの外来入院診療をお願いできればと考えております。都立病院を含むコロナ後遺症対応医療機関のリストは、東京都のホームページから閲覧できますので、参考にいただければと思います。

最後にコロナのみでなく、熱中症や本日説明のあった子どもを中心とした感染症、そして蚊媒体の感染症等の動向や、今後の医療提供体制の状況を引き続き注視しながら、これからも適切な医療体制の確保のために尽力したいと思っております。

以上です。

#### 【福祉保健局東京感染症対策センター担当部長】

上田先生、どうもありがとうございました。それでは最後に賀来先生いかがでしょうか。

#### 【賀来先生】

ありがとうございます。今、三名の先生方からそれぞれコメントをいただきました。私の方からまず新型コロナのモニタリング状況について、少し先生方のご説明と被りますが、お話をさせていただきたいと思えます。

5類移行後も増加傾向にあった定点医療機関当たりの患者報告数は、前週から今週にかけて横ばいとなっています。しかしながら、昨年、一昨年共に夏場にかけて感染が拡大してきたことを踏まえ、引き続き今後の動向には十分な注意が必要かと考えます。

また、医療提供体制に関しても、東京ルールの実用件数、入院患者数ともに前週から今週はおおむね横ばいで推移しています。現在感染しても比較的軽症にとどまっている方が多いということで、現時点での医療体制・提供体制への大きな負担は見られていないと考えております。しかし、現実には学校では新型コロナによる大規模感染による学級閉鎖も発生しております。

また、先ほどからもご報告がありますように、ヘルパンギーナやRSウイルス、或いは蚊媒介感染症も含めた、様々な感染症がまた再び増加して行く可能性が出てきています。

手洗い、うがい、そして状況に応じてマスクの着用等を行っていただく、そのような、基本的な感染予防対策は引き続き重要であると考えられると思えます。加えて、新型コロナや子供を中心とする感染症以外にも、これからの季節、気温が高い日が続きます。改めて熱中症なども含めて、熱性疾患などの受診者の方も多くなることから、医療提供体制に負荷がかかることが懸念されています。

今後も新型コロナをはじめ、様々な感染症の発生状況を注視していくことが重要であり、東京 iCDC としても引き続き必要な分析や助言・支援を行って参りたいと思えます。感染症に適切に対応して行くためには、その感染症のそれぞれの特徴や対処法、さまざまな感染症に関する正しい情報を常にアップデートしていくことが不可欠であります。東京都が都民の皆様へ感染症に関する正しい情報を適時適切に発信していけますよう、今後とも東京

iCDCの専門家の立場からもしっかりとご支援させていただきたいと思います。私からは以上です。

**【福祉保健局東京感染症対策センター担当部長】**

先生、ありがとうございました。それでは最後にここまでで何かご質問等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは今後とも関係者の間で情報共有を密に致しまして、国や関係機関とも連携して、感染者に対し適切に対応してまいりたいと思います。

以上をもちまして、第2回東京都感染症対策連絡会議を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。